校長室だより

国立市立国立第七小学校長　森田弘文
平成２８年２月５日　　NO.２５

『やさしい言葉いっぱい』の学校になーれ！

２月８日（月）に予定されていた全校朝会を前倒しし、本日５日（金）に行いましたので、その様子をお伝えします。全校朝会は体育館工事のために校庭やテレビ放送などで実施していますが、今回は子供達に語り掛けるようにマイク放送で行いました。

今回は生活目標の『やさしい言葉で話そう』というテーマで話しました。はじめに生活目標はなぜあるのかを考えてもらいました。それは、子供達一人一人が学校で友達と仲良く楽しく安心して過ごすための『やくそく』であると説明しました。やさしい言葉は、人をあたたかく安心させる力があり、好ましい人間関係を築く上でとても大切であることを丁寧に話しました。また、反対にきつい言葉や人の嫌がる言動は、気持ちをさかなで暗い気持にさせるもので、疑心暗鬼の心になることも伝えました。さらに、いじめについても同じ事なので、わかりやすく児童の心に響くように心がけ話を進めました。

まず、いじめはどんな場合でも悪であること、いじめをしてはいけないと国や国立市のきまりとしてあることを説明しました。何気ない言葉でも人を傷つけてはいけないこと、暴力は絶対に使わないこと、人をからかったりしてはいけないこと。悪いとわかっていても、それをにやにやと楽しもうと思う心は、絶対に人間としてやってはいけないことを強く訴えました。次に、今月はふれあい月間としてアンケートを実施しますが、それには正直に答え、どんなことでも先生に相談してほしいとお願いしました。また、言葉の暴力はもちろん、友達がいやな事をされて困っている時には、すぐに助けてあげたり、先生に伝えたりするようにも話しました。そんな思いを込めてマイクを通し全校に放送しました。国立七小が『やさしい言葉いっぱい』で、一人一人の子供が元気に楽しく学校生活を送れることを心より願っています。

『花いっぱいの学校』になーれ！

夏にはたくさんのヒマワリが笑顔を見せるように咲き、秋にはうす紅色のコスモスがさわやかな風にゆれ咲く国立七小。春には菜の花満開の校庭にと思い種まきをしたのですが、どうも成長が今一の状態。急遽知り合いの所から菜の花の株を移植し、今は大きな緑の葉が寒空のもと元気に育っています。校庭のみならず校舎の中も『花いっぱいの学校』になーれとの思いから、９月に蒔いたサクラソウが、大きな株となり花芽を伸ばし始め、楽しみいっぱいの今日この頃。あんなに小さな種からよくぞここまで成長したと、生き物の生命力と自然界の営みの不思議さに目を見張るばかりです。研究発表会や卒業式には、サクラソウがそのかわいいお花をいっぱいつけ、心なごみ癒しの空間をあちこちに創出してくれることを願っています。もっともっと×∞『花いっぱいの学校』になーれ！